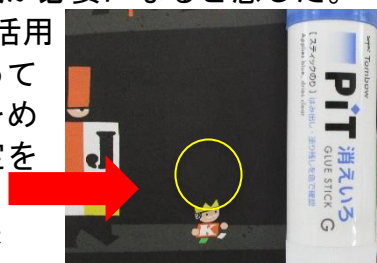


1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山県立早島支援学校	実践者名	難波 大樹
実践場面 (教科、領域、行事等)	ことば（肢体不自由部中学部Ⅲ類型「国語」の授業） 導入場面：読み聞かせ		
単元・題材名	早島のちいさなおうさまたち		
学習目標・ねらい	王様（王冠）に関心を持ち、王様になりきって個別の国語的な課題に取り組む。		
対象の児童 生徒の実態	・ 学習グループの生徒数は6名。人工呼吸器の使用、難聴、弱視、聴覚過敏、上肢・下肢の機能全廃など様々な実態がある。 ・ 学習面においては注視や追視をすることができる生徒が多い。また、生徒全員の言語の理解度は高く、大人と遜色なく会話ができたり、教師からの言葉掛けに対して Yes or No で答えたりすることができる。それに加え、困ったときの依頼や欲しい物、やりたいことなど生徒自身から要求することもできる。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
（１）題材設定 個別課題（言語理解、片仮名文字の理解、形容詞の理解など）の時に生徒がより目的意識を持って取り組めるようにちょっとしたストーリー性を加え、それぞれが物語の主人公として学習できるように題材を設定した。 題材の基となる話は「ちいさなおうさま」（作：三浦太郎、発行：偕成社）主人公のちいさなおうさまが、その小ささ故に様々な困難が待ち受けることや、大きな城での暮らしについて描かれている。その話にアレンジを加えて、「早島のちいさなおうさまたち」（生徒6名）が課題を解決し、無事に城で生活するという内容を設定した。その導入部分として、絵本の読み聞かせを行った。 			
（２）アプリの活用（読み聞かせ） 読み聞かせをする際に、この絵本自体の小ささや主人公の「ちいさなおうさま」がかなり小さく、6名同時に分かりやすく提示するための工夫が必要になると感じた。そのため、「Keynote」アプリのプレゼンテーション機能を活用した。上記のプレゼンテーション機能には録音機能が備わっているため、1ページずつそれぞれセリフを録音し、ページをめくる（スライドを進める）度に自動で音声の流れるよう設定をした。  ※あるページにおける「おうさま」の大きさ			
授業の際には、大型モニターにタブレットを接続し、拡大した状態で生徒に提示した。			



活用のポイント・改善策等

○活用のメリット

絵本や主人公のイラストが小さいため、拡大して提示をするということがこのアプリやモニターを活用する当初の目的だった。しかし、これらを活用したメリットを他にも授業を通して発見することができた。当然ながら生徒たちが絵本や（主人公）を見やすくなったのだが、その他の副産物を順に挙げていく。

- ① 生徒たちがモニター先に映った主人公や物などを指差したり、一人の生徒のリアクションに応じて主指導者がその様子（ページの一部）を指差しや拡大で他の生徒にも気づきをシェアしたりすることができた。
- ② 主指導者は画面を1度タップするとスライドが変わり音声も自動的に流れるため、画面を見続ける必要がなく、生徒たちが画面を見る様子や話を聞く様子を見て反応の変化に気付くことができた。
- ③ 通常の読み聞かせでは、場面に応じて生徒一人ひとりの前に絵本を提示しに教師が移動するということもあるが、その必要性が無くなり、生徒たちの視界に常にイラストを提示することができた。
- ④ 録音機能を活用して、場面に応じて水の音や風の音などをセリフと同時に録音、再生することでその場面の様子を少しリアルに感じるようになっていた。

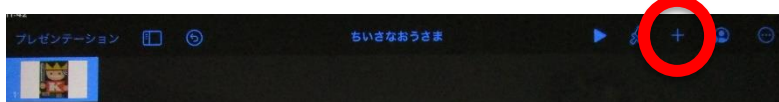


以上、四つのメリットがあり、読み聞かせをする際にどうしても生徒の表情が読み取れない、物語の進行がぶつ切りになってしまうなどの困り感を解消することにもつながった。

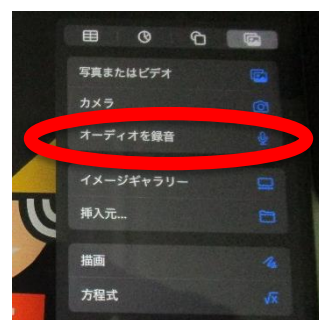
この「Keynote」アプリはAirDropでデータを送付することも可能であり、1人1台端末でも気軽にスライドを見ることができるという点においても便利だった。

〈録音の仕方〉

- ① スライド作成後、録音したいスライドページを開き、画面右上の「+」をタップ。



- ② 「オーディオを録音」ボタンをタップすると、画面下部に「録音」ボタンが出てくるので、それをタップし録音開始・終了。



- ③ 録音が完了すると画面中央にスピーカーボタンが出現。ボタンの長押しで削除など編集することも可能。

